



漢和字府祕傳上

近年内閣字府と名はる

一書あり明朝よりワ

ころ其前心学麒麟書と

て筆法字圖の古きもの

内閣字府と申す



由園字序の甲く丁一

此たるにあり彼を下則

先師寺井養拙といひ人

改印の字序の去あ

つらゝかむ拙い京師の事

教ふ人の門事と教授あり

此も法に趙子昂の如く

言今に独歩せりといふ

内つ各字序の去に改印あり

とて可也といふ事ありぬ

茶菴の如くありて吾乃

茶菴しやうららぬらてて吾わ乃

玉たま義ぎ教きやうくくるるるるとと系けいハハ末まつ

ししわわりり今いまららぬらぬ七十七二

鳥とりのの弟あに法ぽう結むす掛か問もん架か後ご疾やく

運うんのの運うん年ねん皆みな乞ぎとと濫らん

觴さうととむむららららのの道みち

秘ひ傳でんのの心こころををいいふふとといいふふ

法ぽうのの底そこににああるるとといいふふ

筆ふで法ぽうのの極ごくををいいふふ

一永字八法之事

永えい字じ八はち法ぽうのの事ことあり

一永字八法之事

永字八法の法に因あり

後漢の蔡邕といふ人五

岳乃中岳高山一丈一時

石室の如く神人のあふ

邕は換りし筆法の根元

永字八法あるの徳也

邕是としやめの蔡邕

侍子衛夫人字と後り

文く書教く是の後に

文く書く果あり

勅
策
掠

一側よりきりきりと訓く

魚のころら粒くころら石乃

きろりんをららららららららら

点化しく十四をみか

恠石の魚とららららら

一勅ハるよのくくくくくく

らららららららららららら

又字のくくくくくく

化しく十魚とららら

一努ハけしと訓く筆下

一 努ハ口と口と訓く筆ノ
力と力との口と口と筆ノ
筆と口と口と力と力と
口と口と口と口と

一 趨ハ口と口と訓く口ノ
筆法ハ峻極なり云々此

勾化ハ口と口と口と

一 兼ハ口と口と訓く長短

大小ハ口と口と口と

口と口と口と口と

口と口と口と口と

丁五五

て 五 点

一 掠ハ び び び び び び び び

く 下 一 ぬ の び び び び

時 化 十 五 点

一 啄ハ くら くら 一 と 訓 一 一 一

啄 け り り 馬 の び び び の 時 角 一

い ち ち ち ち ち ち 比 一 一 一

五 点

一 磔ハ 一 一 一 一 一 一 一 一

し び び び 有 一 一 一 一 一

物 と 一 一 一 一 一 一 一 一

化 一 一 一 一 一 一 一

化一之八色

如上合一一七十二色

此色畫一之方字皆習

之法一内周字一

少之六畧

永字八法傳系

後漢

秦邕

秦瑗

晉

衛夫人

王羲之

衛夫人

晋

王羲之

漢和字府秘傳下

和款之書法

之乃三字

又ハ九十九ニト云

是ハ次ハ〇ニト云

是ハ紙ヲ取リテ

一頁ノ書法

一首の古法

詠何々和欽

名

フーフー福らて

うゆわとれ目の

きんじめいれ記

丹計架 此字字意
字なり

二幼古字法

如字方二首一減

用り此字二首

二幼七字法

初等二首一減

用りてく三首

まらせし

詠何一一首和歌

名

一 詠何一一首和歌

二 詠何一一首和歌

三 詠何一一首和歌

四 詠何一一首和歌

五 詠何一一首和歌

六 詠何一一首和歌

カキモノのわらわら

カキモノのわらわら

カキモノのわらわら

カキモノのわらわら

カキモノのわらわら

カキモノ

色紙

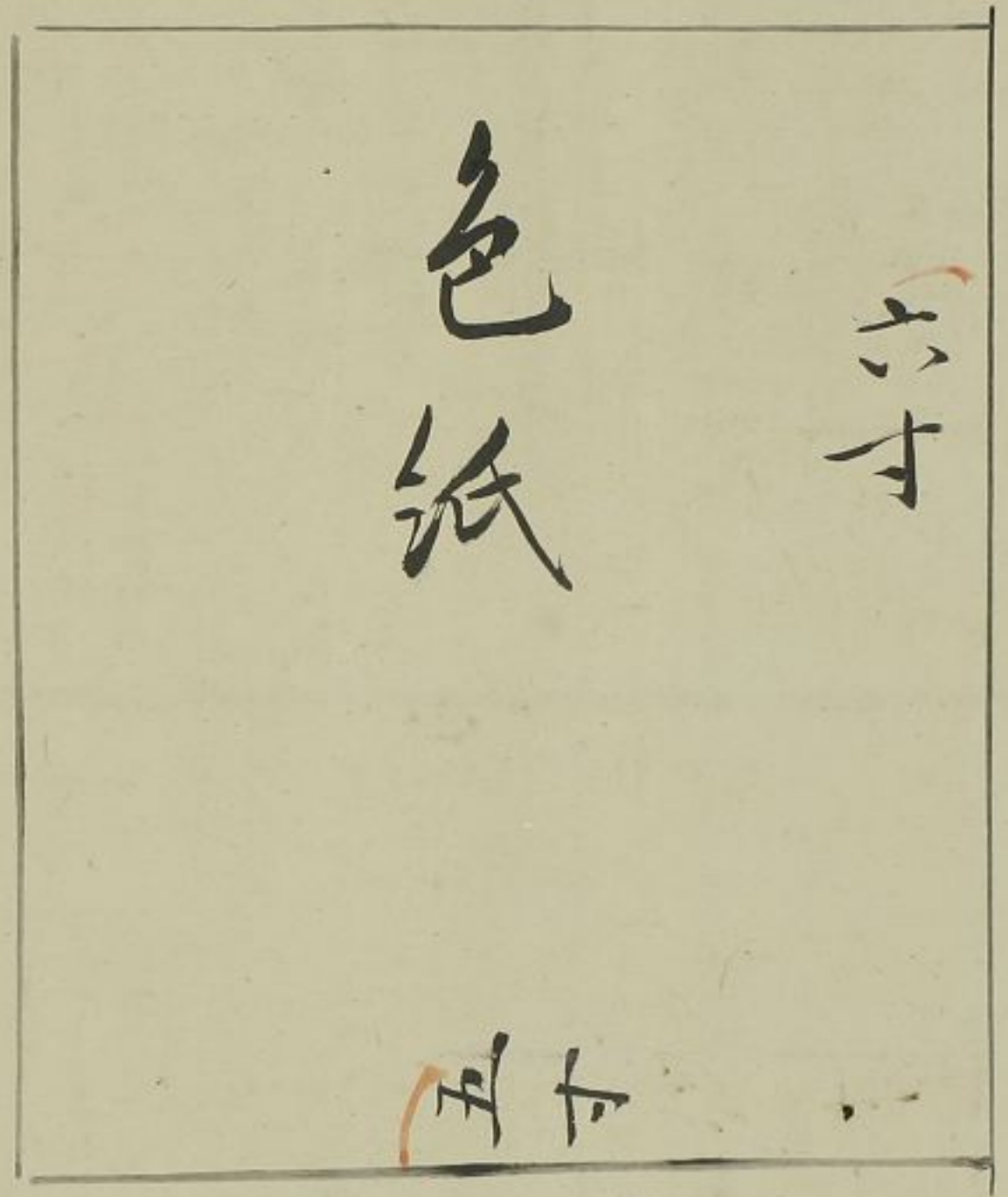
五寸

五寸

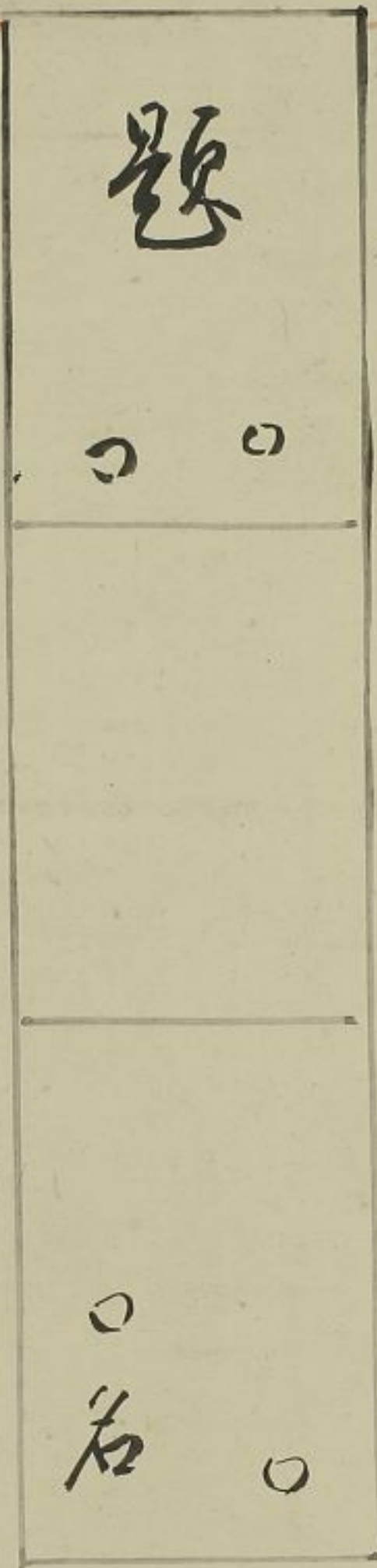
五寸

五寸

リ



五寸
 六寸



幅五寸八分

天子のたしなむる幅五寸と云
 ことゆゑにきくことゆゑに
 下と一折とて字をあはせ
 ちと一折とて字をあはせ

わが
は
か
ら
い
ま
し
や

家隆方

二二二二二二二二
二二二二二二二二

ふ
ら
と
ま
ら

か
ら
い
ま
し
や
の
ま
ら
か
ら
い
ま
し
や

額字法

殿堂山門鳥居玄關

高廿一丈 左右一丈三字

額字法

殿堂、山門、鳥居、玄關

高廿一丈、左右一丈、三字

物之圖

一三五七九、字とる

て、教とと、三五取、而

用、り

文字ハ、楷書、古篆

隸書、草、行書、あり

り、あり

一神号乃額ハ、楷書、古篆

からわらへ

一神号乃顔楷書古篆

と司の魚一法古篆

弘法大師一字印大印

乃顔と法と

一神号佛名寺院の名

ららるる一三六七九の教

限一あ一と一勿端一なり

一古篆の字一秦一の李斯一

小篆と用一の魚一隷字

八一字一と一同一の

字體真字十公内一の

八分字の體

字體真字十分内書

古篆の體ハハ

八分字ハハの體ハハ

師依理卿の體ハハ

古雅の體ハハ

世に顔篆と云蓋是俗

の名付たるハハ字體

と云てハハ

要と云ハハ

なりハハ

新篆の體と云

要とくくくくゆて大極の
りり難象の傷と爰に
教字をいあつては

正 一 位

高野大光明

教字の正位

正位高野大明神

一文字數多力二文字



肥

一文字數多む二

一合れ傳ふ三

一筆のす人なり

一直額三

一内一

一之字なり

一字配大小乃結構あり

筆法一横



一字配大小乃結構あり

筆法はしるるへん——横

顔のふまを例して

知る處——字の寸尺は

四と五なり横の寸尺は

得ら二と五なり縦

と知る五と五なり上

下尤右乃白間と知

るへん

一 名も亦はさるるに

ふまの寸尺は二と五

一 名居小ハ高きこと知り

ふらりのふらり人々二二と際

て知りく直毅も気よ

あは

一 形髪顔の異なりはよく

定まる法なり一之廣

使ハ志々々々々

一 篆文隸字楷書行

書古より今に境地の

風波も伝くことあり

一 予々々々々

山崎の口傳

山中の寺社の篆字

とて風系の

とて古雅

とて

海多の隷草

とて風系の出

り

市中城中の行字と

とて風系の

祀とて風系の

とて

一申

神号の部ハ顔篆と

一神号の部ハ顔篆と

用ゆ是と小篆部字

と云するりり小篆

ハ今字ハ古今通用の

顔篆とあり只傳あり

小篆と神して楷

書と文(用)あり

屋とてハ法なり

隸ハ字形と和法と唯

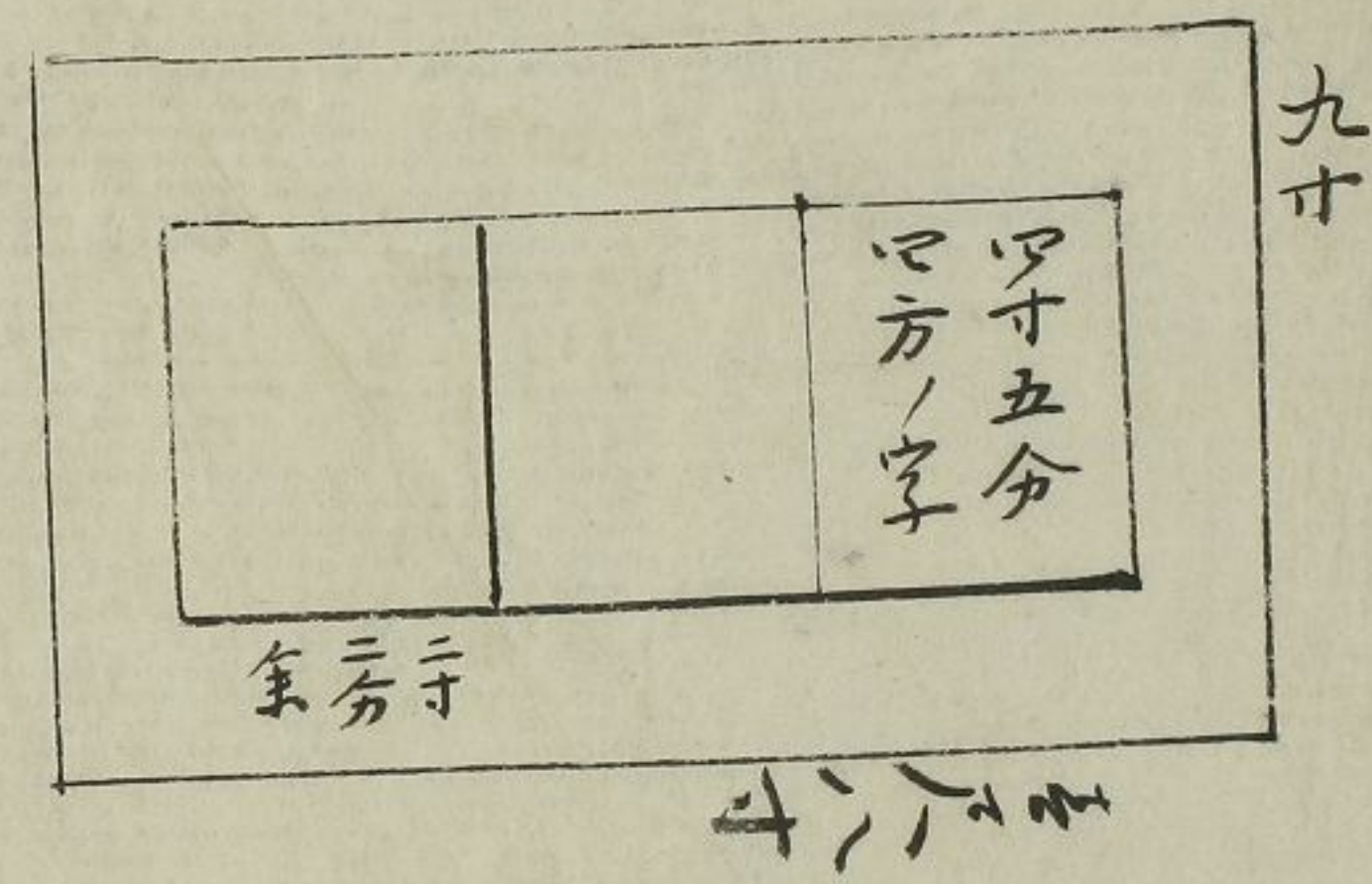
一と云と云と云

と云と云と云

鳥居

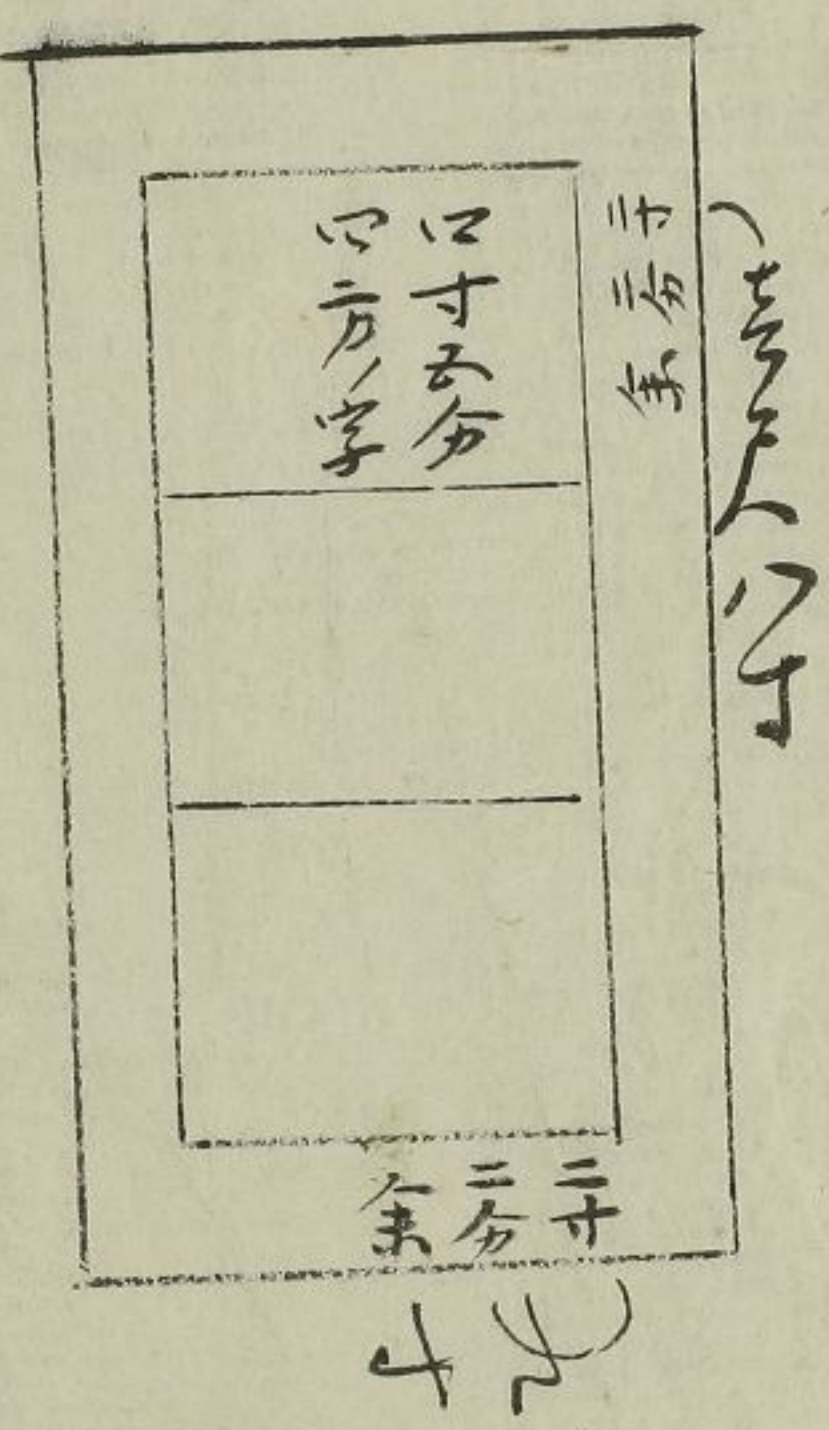
九尺ノ
鳥居

横額



同

豎額



勿得如ら此換板之如ら
寸法を人工よりせし

直額 又榜 十二

九寸

九寸

九寸

九寸

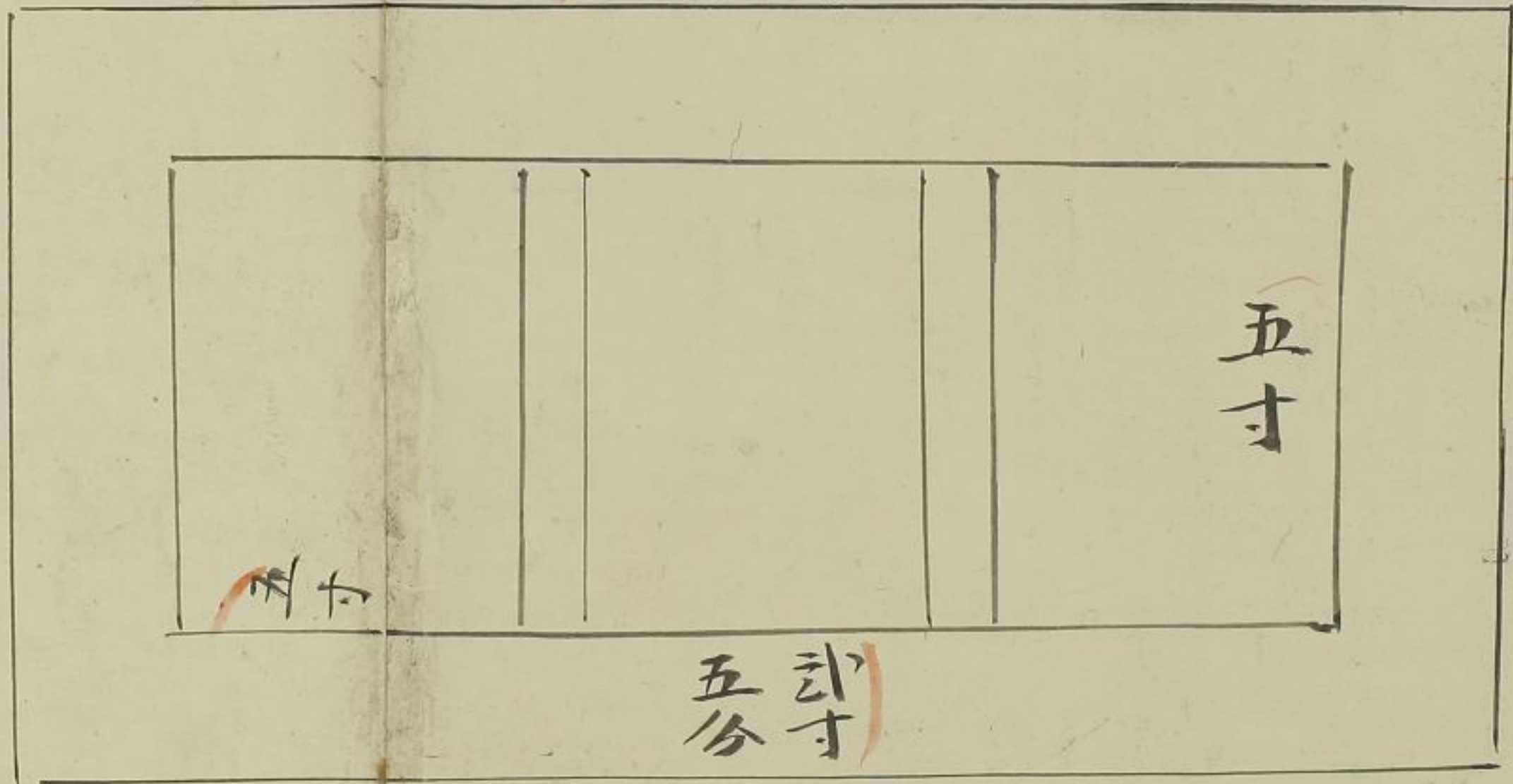
志

五寸

横

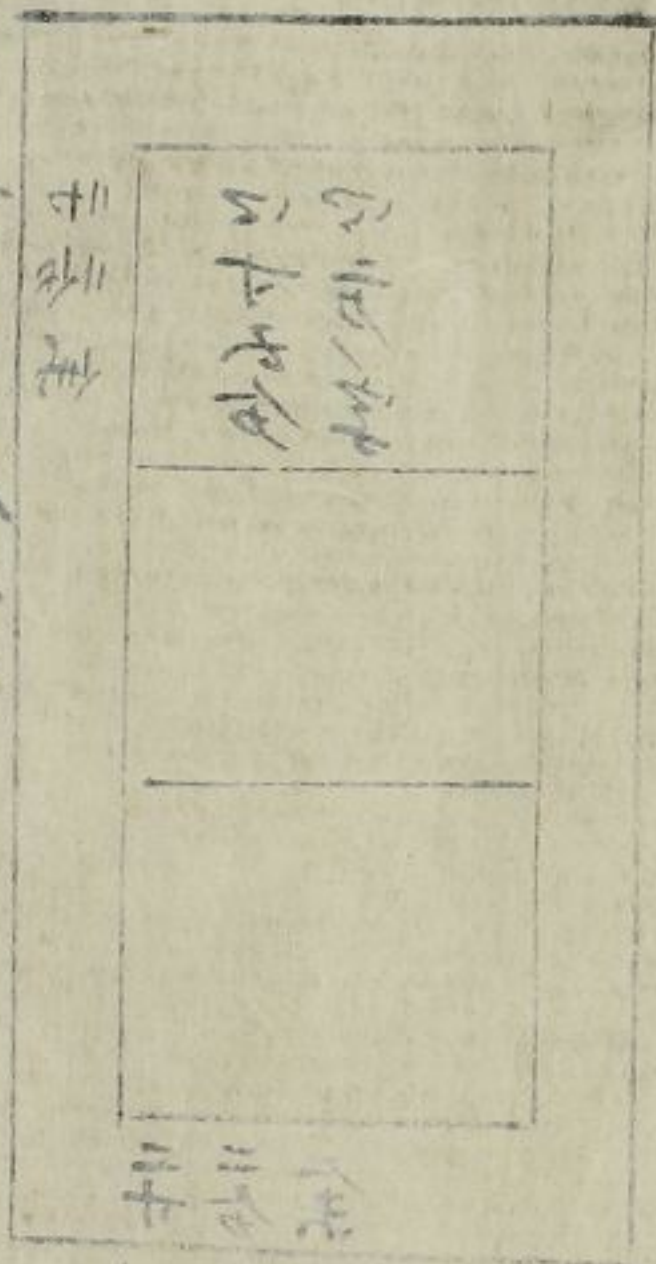
額

五寸



Handwritten notes in cursive script, likely describing the diagram or related measurements.

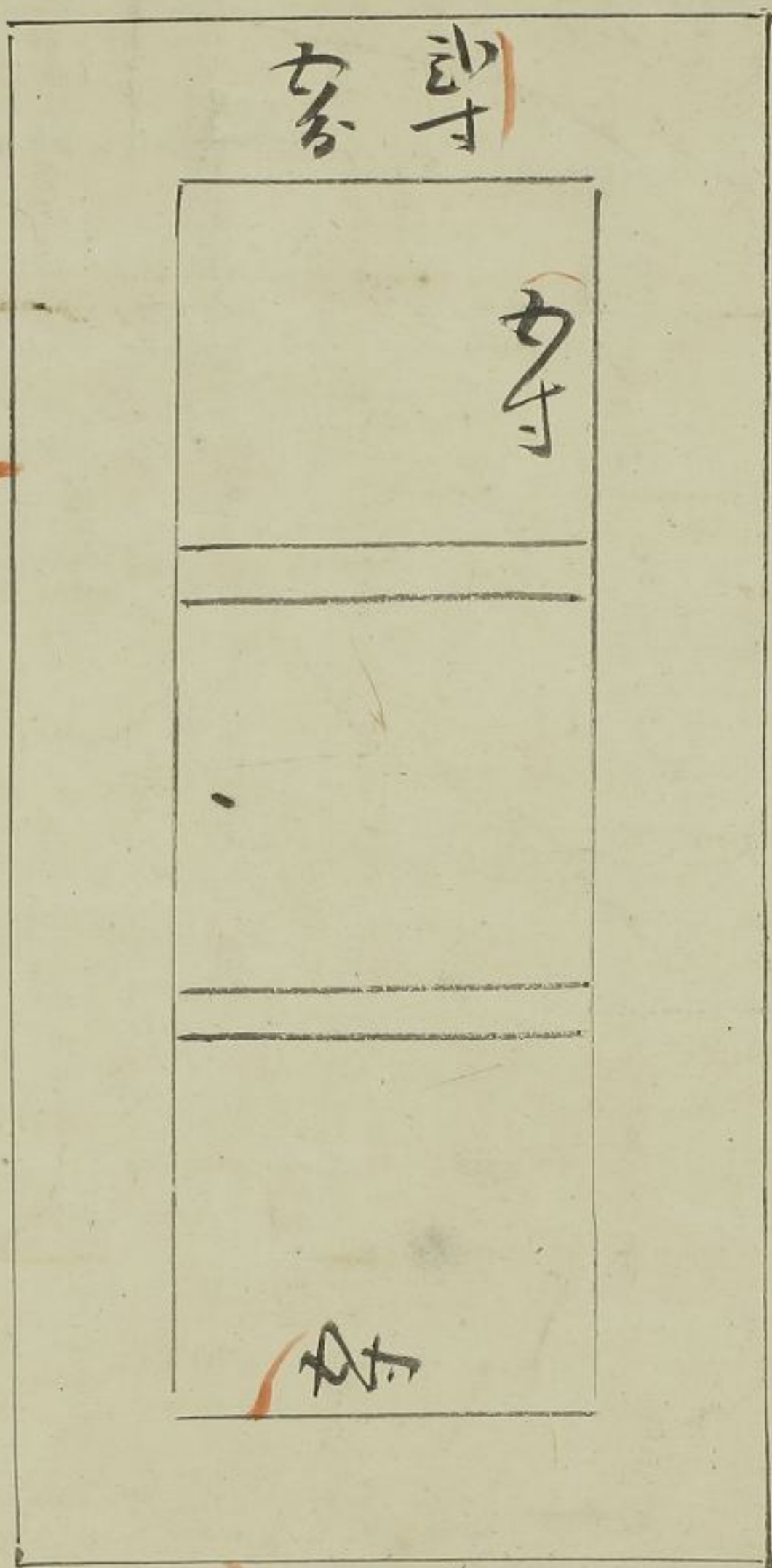
額



Handwritten notes in cursive script, likely describing the diagram or related measurements.

勿論物らに此境極くわし物らの
寸法を人ユキる也し

直額 又榜 十二



二尺

右より一丈 左より一丈の

法より是より算法

出するなり

九寸

七寸

九寸

二尺

出

下馬 下乘

壽永二年上巳依士馬

混雜武衛召曾我太郎

祐信汝能知故實書下

馬札立門下云

但下乘

字下馬札

但下乘はけき文

字下ろ札は種多し

下馬

下馬札といふ字札も云

二字のたはか人といふ

とく下ろの字はよのし

乃也といふ馬の鞍の点

乃者馬の鞍の点

と也短し馬字の

鞍の句のまが馬の尾

懸珠の点の馬の点

と馬の鞍の点

馬の鞍の点

馬の鞍の点

馬の鞍の点

とくしとたてまへ

^二 ^三 ^四
をぐり筆とてしるま

^三
は然珠の点のりと連火
新毫をいふとてしるま

ゆきとてまゆくおらなま

ては北字の若中をりる

ゆくと北の陰の水なる

ゆくとあけとてしる

右表向と立あふ二字札

たり

一 裏門の暑

二字れ

下馬

右に総珠の

草まぐ水の流

たら

馬

陽の

陽身のこころをくま

日北をりかへる

いさよく将のたあつた

右のの流しをくま

ままをいさよ

一 下馬の書法

りつとつた

つたつた

てまは極秘

れのつた

これの字はもろく

右漢和の字府秘傳

先師高師正全名就後

第云の傳る如く

妙年一書 古観

よせ志学

寺井養拙の書

法と文と

に下向の時百餘日学

に下向のよ。百餘日学ん

利を府と侍しつるなり

書禮の家。上。下。各。秘。傳

ま。り。あ。り。と。ん。ま

府の筆法。役。わ。る。と

ゆ。り。ん。吐。け。ら。る。筆。法。は

と。り。あ。り。く。我。道。の。秘。傳

こ。り。あ。り。ん。は。是。れ。也

人。信。り。こ。り。と。わ。る。ん。也

人信(い)ふことわらん

家(い)ぬことわらん

契(い)約(い)も他(い)に

身(い)に(い)は(い)る(い)る

知(い)る(い)る(い)る(い)る


一(い)は(い)る(い)る(い)る

生(い)涯(い)の(い)る(い)る(い)る

互(い)に(い)る(い)る(い)る(い)る

ま(い)は(い)る(い)る(い)る(い)る

きんぎょのしるしは何と
くりにあつても何と
きんぎょのしるしは何と

仲春佳辰萬胤


授与

玉桂少房

授与

主権書房

いんは乃傳

いろは乃傳

い仔ろはまにほへ

以呂波仁保撤止

イロハニホヘト

ちりぬる流をわか

知利奴留遠和加

チリヌルヲカ

たれろつね

与太禮曾津禰奈

ヨタレソツネ

らむうかのた

良武宇為乃於久

ラムウヰノオク

ら び 年 う か の ね く
良武 宰 為 乃 於 久
う ム ウ 井 傳 ノ オ ノ

や ま け ぶ こ 傳 天
也 末 計 不 已 江 天
ヤ = ケ フ ヨ エ テ

あ 阿 さ 薩 き ゆ め 傳 子 し
安 丸 幾 由 女 義 之
ア サ キ ヨ メ エ シ

あ ひ も せ す 須
惠 比 毛 世 寸
エ ヒ モ セ ス

撇
古字
也
千 片カ十
千バ 畫少キユヘニ
匹 畧直ニ用其字ヲ

撤

古字
へ也

千 片カ+

千ハ畫少キユヘニ
匹畧直ニ用其字

フ

フ

圖

草字ナリ

川

万葉ニ松ヲ赤川ト
書リ

季

ハ年ノ古字也本片カ十ニ千ニ千 カ
間違フユヘニ末世ニ至ラ十二支ノ
子ヲ用ユ

井

圍ニ

江

ハ衣ノ草字ニ
エハ江ヲ用ユ

ユハ弓ニ

女

ハ面ニ

三ハ三ニ

正ハ縁ニ

如上

女ハ西面シ
三ハ三ノ
正ハ縁ノ

如上